

音環境の測定のレポートについて

全体的に、非常に良いできてました。この調子で、今後も頑張ってもらいたいと思います。全体的な今後の課題をお知らせすることは少なく、個人個人に対してそれぞれの課題を指摘する段階に来ているように思いますが、やはり幾つか気が付いたところもありますので、下に記します。

- 1) 前回から継続した課題ですが、やはり、はじめに、もしくは目的のところは、できるだけ自分なりの理解を、自分の言葉で書くようにしましょう。分量の面でも、もう少し書いて欲しいものです。
- 2) 測定計画を立てる際に、どのような結果が予測されるのかを考えてみては如何でしょうか。また、その予測を書き留めておき、測定結果と比較すれば面白いと思います。
- 3) 測定機器そのものの使い方については、特殊な場合を除いて、レポートには書かなくても結構です。
- 4) 必要な情報がきちんと詰まった図表、読み手にわかりやすい図表、書き手の意図が伝わるような図表の作成を心がけましょう。図表のレイアウトなどにも気を配りましょう。
- 5) 評価基準などの適用範囲や条件などをきちんと確認しましょう。
- 6) これもまた前回から継続した課題ですが、図表を示す際に、もう一言説明を加えると、もっとわかりやすくなります。レポートを書いている自分は、全部わかっていますが、読み手はそうではありません。また、どの図表から読み取った内容を記述しているのか、がわかるように書いてある方がわかりやすいです。さらには、どうしてその図表を載せるのか、また、どういう意図があるのかははっきりさせてから図表を載せましょう。
- 7) これもまた前回から継続した課題ですが、図書館にある書籍なども参考にして、色々な角度から、考察を進めましょう。さらに、一步踏み込めば、考察のことも考えて実験計画を立てて下さい。
- 8) 全体的に良くできていた中にも、後半で若干息切れしたようなレポートもありました。測定計画の立案時、測定時と共に、「段取り」をしっかり考えましょう。